

路 上は路上のまま

笠井和明

冬が過ぎ、春が来て、そして梅雨となり、夏がきてと、いつもの通り季節は移ろうが、その同じ繰り返しの間に、いつの間にやら路上は嵌り込んでしまったようである。

大変だ、大変だと騒ぎ立てる人々は今や少なくなり、この不景気だもの、それがあたかも当然の如く人々から受け入れられ、テレビドラマの中でもホームレスが立派に登場する世の中となってしまった。それが良いのか悪いのか、長年こんな事をやっている我々にとってみれば、まさに忸怩たる思いである。

言い訳がましいが、我々も問題の本質にやはり切り切れていなかったのではないかと、リーマンショック以降の「ホームレス問題の再現」の中でつくづく思うのである。もちろん、自立支援が間違っていたとは思わない。自立支援の実効性への批判から、近年は保護へと風向きが変わってしまったが、それとて「つなぎ」でしかなく、結局は同じ轍、いや、同じどころか根本的な間違いへと向かっているだけである。



東京と云う立場からすれば、何故もこれほどの失業者が東京へと押し寄せてしまうのかと考えるのである。

よく最近、「普通の国」とはどのような「国」なのかと考える。

生まれ育った土地で、家族と共に、また新たな家族を作り一生暮らしていける国が「普通」だとすれば、地方における産業の空洞化と、労働力の流動化、そして、都市部への流入などは、まさに「異常な国」の象徴とも云えるのかも知れない。

今日も地方の青年が新宿にあてどもなくやって来る。もう田舎には帰れぬと言う。そこで暮らしていける仕事はなく、家業もなく、そして自信もなく…。

旧来の出稼ぎなどで日雇人夫として都会で暮らし続けて来た元々のホームレスと呼ばれていた人々にはまだ、高度経済成長と云う時代があり、夢もあった。自分の身体で「稼ぐ」と云う貪欲な意欲は、年を重ねても、夢破れても、自然に骨身に残っている。それらの人々と比較する事が良いのか悪いのかは分からぬが、その「文化」は今や若い世代には継承されてはいない。マスメディアの影響か、教育の問題なのか、「楽」して稼ぐ事を良しとし、「金」の質を考える事もなく、権利だ権利だと、貰えるものなら炊出し感覚で保護費を貰って、それが当然のように振る舞う人々を作りあげてしまった。

まあ、そうってしまった本人達を責める気は毛頭ないが、それも含めて「異常な国」へとってしまった。

底辺はこうに変質されつつあり、それとつきあい続けねばならぬのが、我々の仕事と来たら、もはやもう、いたたまれないと云うのが偽らざる気持ちである。

「若者の貧困」などと云う言葉で理解しろと言われても、貧困だから経済的な給付を彼等にバラまこうとする意図しかその言葉からは見えない。問題の本質を語らず、ただ状態だけで捉えれば「可哀想」としかならない事はホームレス問題などで経験済みなのだが、何故か世間は同じ事を繰り返す。

これまでなら、落ちこぼれた連中も、アンダーグラウンドの世界に拾われたりしながら、それなりにその地域で生きて来れた。地域社会に余裕があったと云えばその通りで、排除の論理が働くのはよほどの極端な例だけであつたろう。世の中と云うのは高学歴、高収入の人々が思い描くような健全な社会として発展した訳ではなく、社会の規範から多少外れた人々も居て、その混在の中、騙し騙されながら育て来たのである。行政もまた同様で、今では考えられないような結構な無駄遣いをあちこちでしながら、それでも偉そうな顔をしながら富の再分配機能は果たされていたのである。それこそ、若かりうが、年を取っていようが、貧乏人は貧乏人でどうにかこうにか生きてこれたのである。

しかしながら、今やそれは完全な昔話である。

実家に帰りたくないと云う若者独特の自立心は、そのまま都会で空転し、終いには宿無しフーテンを余儀なくされ、その上、おかしい世論の同情はあたかも、昔からそこに居る青年のようにイメージを固定化させ、政治が悪い、格差が悪い、保護だ、保護だと騒ぎ立て、優先順位などどうでも良くなり、最後のセーフティネットの筈が、最初のセーフティネットになり、東京の保護行政は雇用問題の「つなぎ」に意図的に使われてしまったため、今や崩壊の憂き

目に立たされている。

確かに「製造業の派遣労働」はバブル崩壊以降、労働力を大きく流動化させた要因にはなるが、今の改正議論と云うのは、派遣から直雇用、または正社員へと云う、労働条件や福利厚生部分を企業に押し付ける、つまりは国がやりたくないだけの議論でしかない（ちなみに労働政策は国の管轄なので、自治体にそのまま押し付けられない）。地域に仕事と云う議論は産業政策の分野らしく、お見事な縦割りでは終始している。国はともかく、今や政権側の労働組合と云う全国組織があるのであるから、「派遣法改正」もいいが、それよりも、率先して各地で若者の仕事を創れよとも思うのであるが、本工主義の哀しさか、それとも御用組合の哀しさか、選挙活動には勤しむものの、どうもそう云う気運はないようである。他人事のよう批判していれば良いお気楽トンボである。

まあ、もちろんまだ地域はそこまでは崩壊しておらず、そこに仕事もあつたりするので都会に若者が流れてしまうのはいつの時代もあり、そんなに問題視すべきことなのかと思う人々も多いだろう。

しかし、東京の路上はとにもかくにも極端に色々な問題が発露してしまうのも事実である。路上を見ていると日本経済が分かる、日本の暗部もまた分かると言いきってしまうと言い過ぎかも知れぬが、人々が転落して来た過程を日々見ていると、そんな気にもなってしまうのである。

別に誰かに責任を押し付けるつもりはないが、我々が抱えている問題の背景は何とも根が深い。深すぎて見失うのもこれまた仕方がない。もちろん、都市と農村問題はこの国の構造的な問題であり続けているが、それにしてもそこに、限度と云うものがあっても良いであろう。その限度をどうやって創るのかと云うのも大きな課題ではある。

しかしながら地方再生や、産業政策の転換、そして教育改革を待ってもいられない。東京に宿命付けられた失業者の流入を、現状としてどのように受け止め、どのように対処していくのか？これもまた現実的な課題である。

タイミングがとても悪いのであるが、再三皮肉を込めて批判していた「自立支援事業の再構築」が今年の夏から東京では開始される。これにより、段階的な自立支援施設の縮小が始まり、近い将来に、緊急一時保護施設は実質的になくなると云う事となる。



しかし、既に保護行政が崩壊寸前となっている今、そんな事で東京が持つのかと問われれば、最前線の行政マンなら首をかしげる事だろう。ホームレスの集中区において既に「施設」不足と「職員」不足は車の両輪のような顕著なものとなっており、まさに猫の手も借りたい、どんな宿泊所でも確保したいと云う現状にある。クライアントの質は度外視しても、自立支援にせよ、保護にせよ、ホームレス状態にあるのであれば「屋根」はつきものである。

保護行政の批判をする者は多くいるが、その実情まで分かかってしまって尚且つ批判するとするならば、そこに手を貸し、建設的に批判する道しかないだろう。

そんな事もあり、連絡会の事業部門たるNPO新宿では、これまで「自立支援ホーム」「麦の家」を細々と運営していたが、今年からはそれに加え、就労支援ホーム「ほくしんハウス」と、緊急宿泊施設「馬場ハウス」を新たに開設し、単なる口先だけの批判に留まらず、実践的な解決の道へと歩み始めた。もちろん、まだまだ規模も小さく、一種のデモンストレーションでしかないが…。

「緊急宿泊」の拡大、「巡回相談」の充実、権限強化を東京方式の自立支援システムの中に新たなパッケージとして組み入れ、ホームレス対策の拡充をまずはすべきと、東京都に言い続けて来た事への我々なりの回答でもある。

その中でも「緊急宿泊」場所の拡充は、複雑怪奇化している福祉、労働施策への通過点として重要な課題である。これが通年的、もしくは各区広域的にないが故に、毎年お祭り騒ぎのような「派遣村」騒動が勃発していると考えられる。何も人々は年末だけに困る訳ではない。とってつけたようなワンストップサービスやらパーソナルサポートが必要なのではなく、通年的に東京に流入して来る失業者、そして、現にホームレス状態の人々が援助を申し出た時に、まず宿泊出来る場所とフォロー出来る体制こそが東京にはまず必要なのである。「緊急宿泊」は労働行政にとっては門外漢であるなら、お金だけ頂いて福祉行政で実施し、その後労働行政施策が活用出来るのであれば、そこへ流していけば良いだけである。

「緊急宿泊」は大規模施設でなければ、各区分散型で設置は民間団体で可能であり、量の確保も通年的に考えていけばそれなりの規模は可能である。そこを東京方式のステップアップの第一歩と考えれば良いだけである。

もちろん宿泊所をある程度設置したとしても、それが目的ではない。「アセスメント」に関しては

我々はこれまで批判的であったが、流石にここまで施策が複雑怪奇化したら、つべこべ言っている訳にもいかない。「緊急宿泊」内部における、もしくは入所させた福祉事務所なりのアセスメント能力をどう高めるのかも次なる課題であり、多忙な職員に任せるのではなく、主導権を残したまま民間に委ねるなんてのも一つの手法であり、また巡回相談員などもこう云う場に活用は可能である。そうでないから、おかしい団体が本人の意思すら無視して保護の押し売りをやると云う状況が続いてしまうのである。

いやいや年末だけが問題だと云うのであれば、閑散期は「緊急宿泊所」を通い型の自立支援センターにしても良いし、宿泊場所さえ確保しておけば、いろいろと転用も可能である。

これは思い切った提案かと云えば、決してそうではなく、リーマンショック以降、危機感を持った厚生労働省が示した方針でもある。その時点に時計を戻した方がよほど良いと云うだけの提案である。大きな報道がなければ動かない、動くけれどもドツボに嵌まると云う悪循環よりも、地道にやりましよう云う事につきる。

地方経済の復興がなければ、東京への失業者の流入は当面止みそうにもない。ならば我々は当面、腹をくくるしかない。応急援護などを路上に根を張り続けている連絡会などは、もはや「捨て石」である。

所詮我々はそんな存在でしかない。

理想を掲げ、正義の味方ぶるような己からはとうに卒業をしている。仲間と共に泥臭く生きていければ、それで良い。

(了)



1. 調査の期間と場所、及び調査対象者

2010年2月21日、2月28日の両日、新宿中央公園での炊き出しに並ぶ人を対象にした。

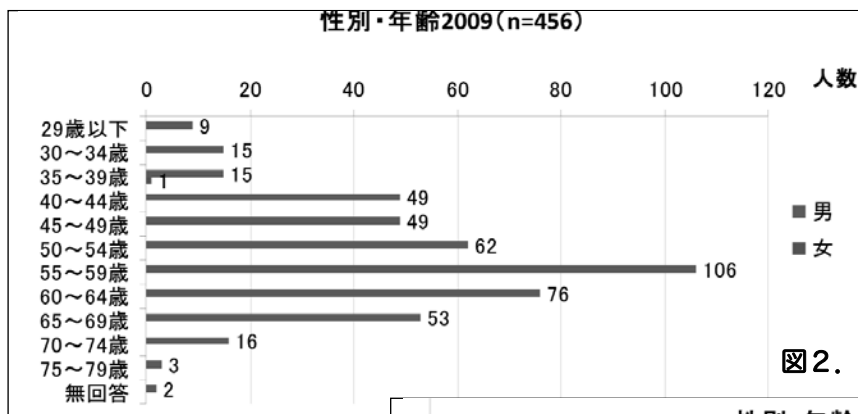
2. 調査の内容及び方法

炊き出しに並ぶ人に対して、「年齢」「おおよその野宿の期間」「おもな寝場所」について、調査員が調査票を使い直接聞き取り調査を行った。

3. 調査結果（カッコ内は2009 年調査結果）

- 1) 聞き取り総数 405 人 (456 人)
- 2) 年齢 平均年齢54.96 歳 (54.05 歳) 最低年齢25 歳 最高年齢78 歳
60 歳以上の高齢者が全体の37.6% (32.9%) を占めた。
- 3) 年齢階層別比較 (図1、図2 参照)

図1. 2009 年 年齢階層別比較



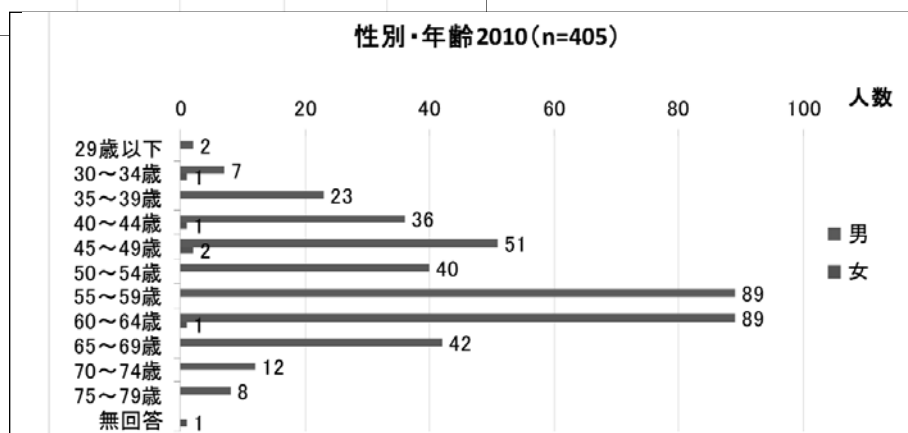
55 歳から64 歳までの年齢層の人たちが全体の44%を占めており、昨年調査（40%）よりも比率が増加している。この年代の人たちは、雇用対策や自立支援事業などを利用して、就労を軸とした路上生活からの脱却を図ることが難しい一方で、生活保護の利用による住まいの確保も容易ではないという事情を抱えていると思われる。この「制度の谷間」に置かれた年齢層に向けた問題の解決が政策的に図られる必要がある。

4) 野宿期間の比較 (図3、図4、図5 参照)

野宿期間の平均は62.4 月であり、昨年調査の54.8 月から8 月程度延びている。新宿周辺の路上生活者の問題が解決に向かって進んでいるとは言いがたいことを示している。

また、今年、昨年とも、野宿期間が1 年未満の人たちと3～10 年の人たち、二つの山があることが見てとれる。これらの二つの山に対しては、一律の施策ではなく、それぞれ質の異なる対応策が必要なのかもしれない。

図2. 2010 年 年齢階層別比較



5) おもな寝場所

新宿を中心に池袋、渋谷区などその居場所は広範囲に広がっていた。

4 おわりに

インターネットカフェやカプセルホテルを居場所に行っている「目に見えないホームレスの人たち」の問題がテレビなどで取りざたされている。各福祉事務所では、住む場所や仕事が無い人たちの生活保護の申請と開始がこれまでにないほどに増えているという。

しかし、「目に見えるホームレスの人たち」の問題は解決していない。彼らは、継続的な野宿状態の

まま、1年ごとに年をとっていることは、今回の聞き取り調査でも明らかである。つまり、昨今の、生活保護申請の増加の動きは、この10数年来の野宿問題の解決にはつながっていないという現実が見える。こうした動きが、住む家無く、野外での生活を継続することを余儀なくされている最貧困の人々の問題とは別の所で起こっているとしたら、行政も支援者達も、今の現実を直視し、原点を見据えた動きをあらためて作っていくことが必要と思われる。

今回も昨年と同様の結論で報告を終える。

なぜ、目に見える形で、路上にこれだけ多くの中高年や高齢者が長期に滞留しなくてはならない現実があるのだろうか？これを解決する道は、困難であっても不可能ではないはずである。

図3. 2009 年野宿期間

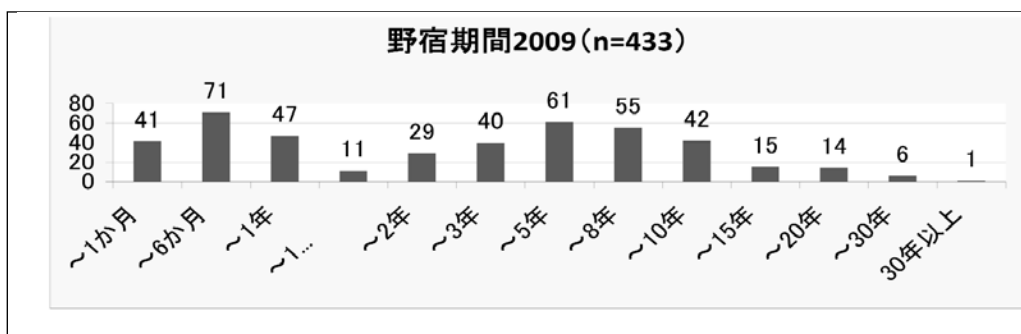


図4. 2010 年野宿期間

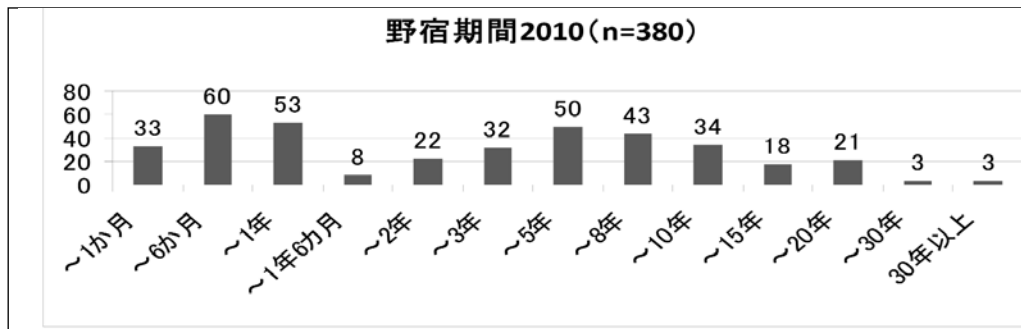
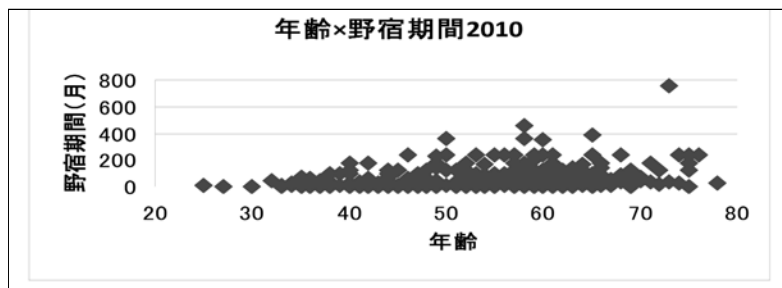


図5. 2010 年調査 年齢と野宿期間





今年も新宿花見の会は大盛況！

春の恒例行事、新宿花見の会は今年も4月3日、350名近い仲間が集まり、新宿中央公園で開催されました。厳しい冬場を乗り越えた仲間達は春の到来と、花見の会を毎年楽しみにしてくれています。手づくりの特製弁当はあっと言う間に品切れ。腹一杯になった後は、お酒を酌み交わしながら交流を深めました。今年はビックイシュー基金の方も合流し、ゲーム大会なども行われ、日が傾くまで和気あいあいのとても楽しい一日でした。



第16回新宿メーデー今年は200名結集 団結を守り抜く。

5月1日、これまた恒例の新宿メーデー行動が、今年は200名の結集で執り行われました。今年は土曜日開催のため、都庁交渉はなし、その代わり4月28日、前もって「要望書」を都庁に提出し、代表による意見交換を行って来ました。「緊急就労居住支援事業」の開始など、交渉の成果はじょじょにはありますが、具体化しつつあります。生活保護ではなく、屋根と仕事につながる自立支援施策の拡充を強く訴えて来ました。



メーデー当日は久しぶりに仲間が新宿の街を闊歩する日。難しい話はさておいて、みんなが毎年集まり、声をあげる事こそが、連絡会の力の源泉である事が、集まった一人ひとりに実感できる元気いっぱいのデモンストレーションを柏木公園から中央公園までやり切りました。個人参加の支援の方々も集まってくれ、新旧の仲間が高らかに声をあげ、新宿の団結健在なりを示しきった行動でした。

さよならポケットパーク。



1998年2月から連絡会の炊出し拠点であった新宿中央公園ポケットパークについて別れを告げる日がやってきました。リーマンショック移行の人数増加に伴う住民トラブルを回避するため関係部局との協議をした結果。2月28日の炊出しを最後に、3月7日から同じく新宿中央公園「水の広場」へとスムーズな移行を行いました。新宿西口インフォメ前から中央公園ポケットパーク、そして「水の広場」へと時代と共に移ろい行く炊出しですが、炊出しの必要のない時が来るまで、応急援護を場所は変われど、これからも続けたいと思います。

新宿連絡会 会計報告

2009年度決算と2010年4-6月報告

多くの方々のご協力で2009年度は、慢性の赤字体質からの脱却が出来ました。資金面でのご協力して頂いた皆様、どうもありがとうございます。炊出しに集まる人々の急増で炊出し関連の出費が増えましたが、なんとか補う事が出来ました。

2010年度4-6月期 新宿連絡会会計収支報告

勘定科目	金額	勘定科目	金額
I 計上収入の部		消耗品費	178,180
1 寄付金収入	8,391,444	事務用品費	155,289
		リース料	102,436
計上収入合計	8,391,444	衛生管理費	10,290
		支払手数料	51,520
II 計上支出の部		車両費	39,798
1 事業費		研修費	105,227
炊き出し事業	1,766,830	事務所分担金	10,000
越年越冬事業	1,799,018	雑費	2,760,000
夏まつり事業	525,041		37,975
花見事業	139,616	計上支出合計	
池袋支援事業	210,000	計上収支差額	8,104,866
その他活動事業	106,726	前期収支差額	286,579
2 管理費		次期繰越金	△95,829
会議費			190,749
旅費交通費	12,000		
通信費	94,920		

収入)	支出)
炊出部門寄付 265,730	炊出し事業費 339,959
活動部門寄付 0	池袋支援費 30,000
その他寄付 1,222,330	花見事業費 98,256
前期繰越金 190,749	活動事業費 96,034
	衛生管理費 11,349
	旅費交通費 42,570
	通信費 34,800
	消耗品費 20,101
	車両費 15,300
	事務所費 690,000
	支払手数料 4,102
	雑費 0
	前期繰越金 190,749
	次期繰越金 105,589
合計) 1,678,809	合計) 1,678,809

連絡会は専従なし、人件費なしの全てがボランティア活動、しかも集まったお金は右から左へと路上の仲間のために惜しみなく使い切ります。組織防衛より仲間の防衛第一。皆様のご寄付を路上支援へと責任をもって転嫁しています。こんな活動でも何かと物入りが必要です。今年度も昨年度に引き続き、資金カンパを宜しくお願い致します。

またもやこの時期、米 急募！

この間、皆様のご協力でかなりのお米を備蓄していましたが、昨年度以来の仲間の急増で昨年集中的に集めたり購入したりしたお米の在庫がまたもや尽きそうになっております。連絡会は現在、新宿での一回の炊き出しで約150キロを消費しています。月にして約600キロが必要となっています。

古米でももちろん構いません。着払いもオッケーです。お米券でも構いません。60キロ以上の大量寄付の場合は車で取りに伺います。どうかお台所や納屋の隅に余っているお米がありましたら、1粒から寄付を受け付けております。いつも腹ペコのおじさん達のため、炊き出し用のお米の寄付、今年も宜しくお願い致します！

●活動カンパ

振込は、郵便振替口座00160-6-190947「新宿連絡会」まで。

オンラインカンパは、<http://www.giveone.net/>「Give One (ギブワン)」(登録NPOを探すをクリックし新宿連絡会を見つけて下さい。)からだとジャパンネット銀行、クレジットカードで寄付が可能です。

●郵便物及びカンパ物品送付先は以下の住所にお願いします●

★郵便物及び衣類、医薬品、米などのカンパ物品は

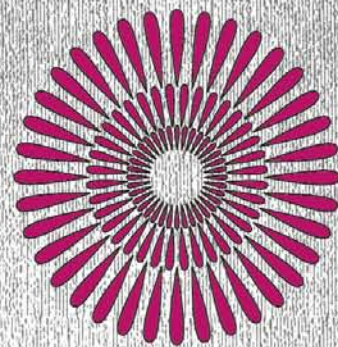
〒169-0075 東京都新宿区高田馬場2-6-10関ビル106号 新宿連絡会 宛て

(平日9時～5時で受取が可能です) でお願いします。

17th

新宿

Shinjuku Summer Festival



夏まつり

新宿中央公園「水の広場」

2010/8/14-15

8/14(土) 午後5時より

8/15(日) 正午より

午後6時より

午後7時より

午後8時より

追悼会、カラオケ大会、映画上映会、そうめん配布など

昼飯配食 ゲーム大会、スイカ割り、衣類配布など

結核検診会、医療相談会

納涼コンサート(五十嵐正史&ソウルブラザーズ、玉木バンドなど)

特製弁当など配布

盆踊り大会

(午後9時終了予定)

主催・新宿連絡会 090-3818-3450

後援・特定非営利活動法人新宿ホームレス支援機構

有限責任事業組合新宿・山谷ネットワーク

協力・新宿保健所